

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25243008

研究課題名(和文)環太平洋における在外日本人の移動と生業

研究課題名(英文)Transnational Mobility and Occupations of Overseas Japanese in the Pacific Rim

研究代表者

米山 裕 (YONEYAMA, Hiroshi)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：10240384

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,800,000円

研究成果の概要(和文)：第二次世界大戦前から戦後にかけての環太平洋において、外地および外国で暮らす日本人(在外日本人)とその子ども(日系人)の移動と職業について、移民たちが残したさまざまな文献をデータベースに入力した。そのデータをもとに、日本からアメリカ合衆国、カナダへの国際移動、移住地内での移動と職業、生活などについて、歴史学、地域研究、地理学、社会学、人類学の方法論を用いて分析し、在外日本人の経験の全体像の把握に努めた。

研究成果の概要(英文)：Various address and occupation data of overseas Japanese were collected from Japanese-language immigrant directories and who's whos. Mobility and occupational change among the Japanese in the United States and Canada were analyzed. Additionally, migration out of Japan, Japanese in China, and Korea in the pre-WWII period, Japanese in Argentina in the postwar period were examined.

研究分野：アメリカ史・アメリカ研究

キーワード：移民 日系人 在外日本人 環太平洋 データベース アメリカ：中国：韓国：アルゼンチン：カナダ

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の根本は日系人研究および日本人移民研究である。人の移動に関わる隣接研究分野では以下の2点において新たな展開があり、それらに呼応する形で日系人研究・日本人移民研究を再構築する試みが本研究である。

(2) 「グローバル・ヒストリー研究」一国的観を相対化し、広域的な社会経済・政治秩序を描く枠組として、グローバル・ヒストリーのアプローチが注目されている。本研究も広域的な研究領域としての環太平洋地域システムという視点の重要性を共有する。しかし、グローバル・ヒストリー研究は、貿易、流通などの社会経済史的過程の副次的産物として人の移動を扱う傾向がある。本研究は、むしろ、人の移動が、どのように広域的経済構造を再編し、社会文化環境を再構築したのかという問いを強調するものである。

(3) 「日本帝国内における移動研究」日本人の移動に関し、従来の送入/受け入れの単線的な視点を脱して、「帝国」内の広域的な移動として包括的にとらえる視角が定着しつつある。しかし、これらの研究を含む移民研究の主要な関心は、アイデンティティ、コミュニティ、文化変容、多文化共生などの伝統的テーマが中心である。戦争が移動と生活に激変をもたらした在外日本人の経験を理解するために、第一に旧「日本帝国」勢力圏だけでなく北南米などの非勢力圏を含んで相互連結した環太平洋地域という広域的枠組み、第二に移動者が生きる世界を根本から形づくったものとしての「生業」概念の再定義、の2つの視角から、議論の枠組みを問いなおす必要がある。

2. 研究の目的

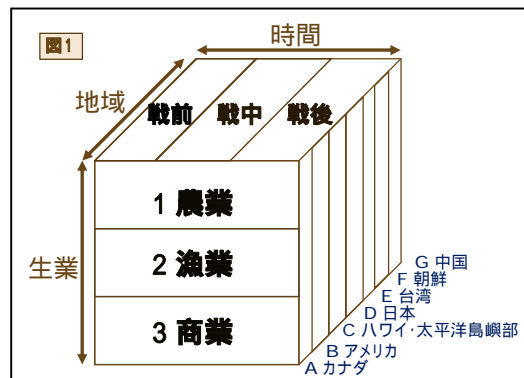
(1) 本研究が目指す環太平洋地域における日本人の国際移動に関する共通のビジョンは次の通りである。太平洋戦争以前、日本列島外の環太平洋地域(南北米大陸、東アジア、太平洋島嶼部を含む)で暮らす数百万人の日本人(在外日本人)は、移動を繰り返しながら、職業を開発し、働き、家族・コミュニティを形成し、生活した。そして彼らは太平洋戦争に伴って財産の没収・放棄、強制立ち退き・収容、日本への送還等を体験し、新しい戦後世界に定着した。

(2) 歴史学、地理学、社会学、人類学の各学問分野を生かして在外日本人の国際移動と「生業」・「環境」の関係にアプローチし、環太平洋における戦前から戦後にかけての日本人世界の拡張と収縮について個別研究を積み上げて全体像の把握を目指し、その上で在外日本人の生業の変容に関わる移民地図を作成することを目指した。

3. 研究の方法

(1) 「生業」概念の活用。日本人が海外へ渡ったとき、移住先の環境に適応する努力がなされる。その場合、気候・土壌・水利などの自然環境だけでなく、ホスト社会の少数民族政策、経済的階層性などの人文環境も重要であり、地域・時代にもっとも適した生業が選択され、それ以外は放棄される。戦争に伴う強制移動も広義の人文環境と考えられる。本研究では、環太平洋の多様な地域・時代を事例に各分担者が在外日本人の活動について研究する。

(2) 地域と生業の交差。アメリカ、カナダ、ハワイ、ブラジル、アルゼンチン、中国、韓国、台湾を対象に、各地の在外日本人が従事した農業、漁業、商業、そしてそれらをつなぐネットワークに注目し、それぞれの生業がどのように形成され、当該地域の自然環境・社会的環境に対応しながらどのように変化し、衰退あるいは継承されていったのかを実証的に考察する。考察対象とする時代を、戦



前、戦中、戦後の3区分に分ける。(図1)それによってそれぞれの圏内だけでなく、例えば、南洋からハワイへ、満洲からブラジルへというように、双方の圏内をまたぐ人の移動を捉えることになる。日本帝国の勢力圏内のみを考察対象としてきた従来の研究と異なり、環太平洋地域全体を俯瞰する新たな枠組みの構築を図る。

(3) 3つの空間的アプローチ。第1は、日本国内(内地)である。「生業」レベルで移住を惹起した社会・経済的背景を、土地所有とその生産性の多寡を検討するために地籍資料を活用してミクロ・スケールで分析する。第2に、国内から移民先への移動をマクロ・スケールで捉える。『加州人物大観』『在米和歌山縣人発展史』などの日本人住所氏名録を活用する。これによって、都道府県レベルから移住国、さらには州・地域レベルでの移住・移動の実態が判明する。さらに、乗船・上陸名簿などとも併用すれば、上陸地とその後の移住先も検討できる。第3に移住先での「生業」について検討する。そのために現地での住所氏名録を活用する。移民も含むほとんどの居住者について、住所・氏名・職業が明記されたこの資料は、広く北米やイギリス

植民地で作成されている。この資料を精査することから、日本人の「生業」が判明する。また、家屋1棟単位で描かれた火災保険図も重要な資料である。つまり、これらの資料の相互利用から移住先のミクロ・スケールの地図の作成と、その分析が可能である。また、先述した地籍資料は、日本植民地でも作成され、現在でも現地の公的機関に保存されている。この資料を活用すると、朝鮮や台湾での日本人の農地所有から「生業」が検討できる。

(4) 太平洋システム。本研究では、日本人の国際移動の背後には、複数の移民集団を巻き込み、国家・地域を連結させる制度的基盤としての「太平洋システム」が存在していたことを強調している。太平洋システムは、19世紀以降の欧米帝国列強による植民地支配を背景に、アジア・北南米・太平洋島嶼地域のあいだを移動する資本家、植民地官僚、キリスト教宣教師、そして中国やインド出身の労働者や商人などのネットワークの集積として理解できる。本研究では、アジア太平洋を横断する移動システム構築をめぐる議論を整理した上で、英国・米国の植民地政策の検討及び日本人に先行して移動システムを開拓した華人の経験を参照する。そして、日本人移民の移動・生業・戦争体験を、これらの環太平洋システムの歴史的変容に位置づけるとともに、彼らの活動がシステムのあり方をどのように変えたのかを議論する。

4. 研究成果

(1) 出版年代が1910年代半ばから戦後の1950年代にいたる12点の主要人名録の伝記的情報を整理、検証しながらデータベースの項目に適切に記入して移民社会の重要人物データベースを作成した。その規模は、延べ約13,000人(見出しの人数)である。日本人移民社会の主要人物について、出身地、移住年、上陸地、職業・住所の変遷、家族構成等の情報が一覧できるものである。

これらの出版物は、各個人について叙述的に経歴、現在の状況、家族等について記載するものである。入力作業者は、記述を理解した上で所定の項目に振り分けて入力することが必要となる。全資料共通の入力項目を設定して、データの結合や比較が可能となるようにした。項目としては、氏名(氏と名それぞれ日本語とローマ字)、住所(州、市、地区、ストリート、前住所)、出身地(道府県、市郡、町村、字)、生年月日、渡米年、上陸地、家族情報等が主要なものである。アメリカ、日本の地名については、出版当時の行政区画を参照しつつ、誤記、誤植を訂正しながら作業を進めた。

前住所、職業、家族の3項目については、年表的なまとめ方が必要となり、500字を越える記述も珍しくなかった。これら出版物は、

基本的には県人会や職業団体の記念出版物であり、相当の賛助金を払った「成功者」による自己申告の情報を編集したものである。そのため、資料としては「成功」バイアスが掛かったものと言える。しかし、苦労を経て成功したという移民の成功物語のフォーマットが多いため、事業の失敗等についても赤裸々に語るものが多く、生業の変遷をたどる上で、有効な資料データベースの作成となった。

一方で、このような生業変遷の複雑さは、生業、移動に関わる移民アトラスの作成においては、一般化、単純化を阻む要因となった。このため、研究期間内にできるだけ多くの資料をデータ化することを優先し、地図化の作業は、今後のプロジェクトにおいて追究する課題とした。

(2) 日英両語併用された住所録『羅府年鑑：紀元2600年奉祝記念大鑑』(1940年)をデータ化し、約8万人の住所データベースを作成した。本資料の特徴は、日本人移民・日系人の最大の人口集積地であった南カリフォルニアを中心に、強制収容直前の時期に最も網羅的な住所録として作成されたことである。氏名は日本語とローマ字の両方、日本の出身地、職業は日本語、現住所と電話番号は英語である。アメリカ合衆国政府は1942年に西海岸在住日本人・日系人を強制収容した際に、被収容者全員の氏名、職業、出身地、住所等を含む詳細な名簿を作成しているが、全てアルファベットの情報であり、日本語で記録された他データとのリンクが困難であった。『羅府年鑑：紀元2600年奉祝記念大鑑』データベースは、今後このようなアルファベットのみ政府資料を活用していく上で、日本語資料群との結節点として有効に活用されることになる。

当データベースの作成に当たっては、資料の高精度スキャン、OCR処理と目視による校正、旧字体や地名(日本、アメリカ合衆国)についての一貫したデータ処理など、さまざまなノウハウの集積が必要であった。このように手作業の部分が長く、想定していたよりは処理に時間がかかった。そのため、当初は『羅府年鑑：紀元2600年奉祝記念大鑑』以外の住所録として、サンフランシスコの日米新聞社やハワイの布哇報知社が発行したのもデータ化を予定していたが、それらの作業に進むことはできなかった。

(3) カナダ・バンクーバー市の日本語移民新聞『大陸日報』の紙面画像データベースの見出し作成作業を進めた。戦前期(1942年まで)のほぼ全期間について入力が完成した。本作業は、プリティッシュ・コロンビア大学(UBC)との共同作業であり、UBCが画像資料を提供し、本プロジェクトが日・英両言語での見出し

しを作成・確認するものであった。

日本人移民による日本語新聞は各地で発行され、米国、カナダの主要大学の作業によりほぼマイクロフィルム化は完了している。一方で、紙面のデジタル化は『大陸日報』以外は進んでいない。その意味で、UBC と共同でデジタル紙面を検索できる見出し情報の入力をほぼ完了することができたことは、今後 UBC で公開される予定の『大陸日報』が広く研究に活用されるにあたって、プロジェクトとしての貢献ができたことを意味する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 27 件)

河原 典史、カナダ日本人漁業史研究をめぐる展望と課題:近年における北米の成果を中心に、立命館文学、査読無、656 号、2018、121-135

MINAMIKAWA, Fuminori、Refugees in Japanese America: Immigration, Gender, and Wartime Memories during the 1950s、立命館言語文化研究、査読無、29 巻 2 号、2017、29-44

石田 智恵、柔らかな人種主義:アルゼンチンにおける「ハポネス」の経験から、文化人類学研究、査読有、18 巻、2017、87-111

河原 典史、サケを運んだ薩摩人:カナダのサケ缶詰産業における日本人移民史、立命館文学、査読無、650 号、2017、123-138

南川 文里、エスニック・コミュニティ史における主体性と構造:多人種と越境者のリトルトーキョー、史潮、査読無、79 巻、2016、28-50

和泉 真澄、ヒラリバー強制収容所の農業活動に見る日系アメリカ人の生存戦略:戦時中の一世代の活動再考に向けて、移民研究年報、査読有、22 巻、2016、3-21

河原 典史、20 世紀初頭のカナダ西岸における塩ニシン製造業の歴史地理学的検討:是永・嘉祥家を中心に、立命館文学、査読無、645 号、2016、119-136

南川 文里、ポスト占領期における日米間の移民とその管理:人の移動の 1952 年体制と在米日系人社会、立命館国際研究、査読無、28 巻 1 号、2015、145-161

佐藤 量、新谷 千布美、菅野 智博、飯倉 江里衣、帰国邦人団体の会報からみ

る満洲の記憶、信濃、査読無、67 巻 11 号、2015、849-872

和泉 真澄、鉄条網なき強制収容所:第二次世界大戦下の日系カナダ人、立命館言語文化研究、査読無、25 巻 1 号、2013、119-135

南川 文里、鉄条網のなかの「コミュニティ」:アメリカ合衆国の戦時強制収容は日系人社会をどう変えたのか、立命館言語文化研究、査読無、25 巻 1 号、2013、91-103

酒井 一臣、不戦条約再考:「人民ノ名ニ於テ」論争の意味、史林、査読有、96 巻 3 号、2013、66-93

[学会発表](計 75 件)

SONODA, Setsuko、The Transnationalism of the National Salvation Activities by the Chinese in Port of Spain, Trinidad, during the Sino-Japanese War of 1937-45, British Association for Chinese Studies 2017 Annual Conference(国際学会), 2017

SONODA, Setsuko、Voices from the Chinese Indentured Labourers in Spanish Colonies: Reports by China's First Official Investigations in South America in the 1870s, 2017 International Conference on the Centenary of the Abolition of Indentureship in the British Empire(国際学会), 2017

IZUMI, Masumi、Women's World in Japanese American Concentration Camps: Excavating Issei Women's Thinking from the Gila News Courier, Association for Asian American Studies(国際学会), 2017

河原 典史、研究成果を還元する:『東宮殿下御渡欧記念・邦人児童写真帖』の復刻から考える、第 297 回京都民俗学会、2017

河原 典史、バンクーバーにおける日本人ガーディナーの歴史的展開、日本カナダ学会 第 42 回年次研究大会、2017

坂口 満宏、北米に渡った熊本県からの移民と郷里のつながり、アメリカ学会 第 50 回年次大会、2016

坂口 満宏、名簿と地図から考える出移民の歴史、近世史フォーラム 11 月例会、2016

SONODA, Setsuko、China's Transnational Politics and Disputes among the Overseas Chinese in Port of Spain,

Trinidad, 1930-1970, Joint East Asian Studies Conference 2016 (国際学会), 2016

石田 智恵、アルゼンチン社会と在亜日系コミュニティにおける「ハポネス」のイメージ、日本ラテンアメリカ学会 第 37 回定期大会、2016

佐藤 量、「満洲の記憶」とオーラルヒストリーを問うということ、日本オーラルヒストリー学会 第 14 回大会、2016

河原 典史、第二次世界大戦以前のサケ缶詰産業における日本人サケ運搬者：鹿児島県出身者の資料から、地域漁業学会 第 58 回大会、2016

IZUMI, Masumi, Issei Leadership at Gila River: Agriculture and Social Order in the Japanese American Internment Camp, Pacific Coast Branch-American Historical Association, 110th Annual Meeting (国際学会), 2016

米山 裕、移民と難民の間：Panikos Panayi and Pippa Virdee の Imperial Collapse 概念をめくって、日本人の国際移動研究会 月例会、2016

園田 節子、太平洋を越える 20 世紀北米華商の商業ネットワークと政治チャネル、日本人の国際移動研究会 月例会、2016

坂口 満宏、『伯刺西爾行移民名簿』を用いた出移民研究の方法について、マイグレーション研究会、2015

IZUMI, Masumi, Inclusion of Return Migrants in Japanese Canadian History: Reunion of the Families of Former Vancouver Asahi Players, Japanese Studies Association of Canada, 2015 International Conference (国際学会), 2015

IZUMI, Masumi, Transpacific Analysis of the 1907 Vancouver Race Riot: Connecting Japan, Hawaii, California and Canada, Annual Meeting, American Studies Association (国際学会), 2015

南川 文里、「エスニック・コミュニティ」の描き方：在米日本人社会における多人種性とトランスナショナリズム、歴史学会 第 40 回大会 (招待講演) 2015

酒井 一臣、移民か棄民か：近代日本における「文明国標準」の移民観、高知海南史学会 2015 年度大会、2015

MINAMIKAWA, Fuminori, Post-internment Little Tokyo in the Trans-Pacific, American Studies Association, Annual Meeting (国際学会), 2014

⑳ 石田 智恵、「邦人」の終わり：国民社会と日系コミュニティの変容、日本ラテンアメリカ学会 第 35 回定期大会、2014

㉑ 米山 裕、日系移民史における自発的移動と非自発的移動：二分法を超えて、日本アメリカ史学会 第 10 回年次大会、2013

㉒ 和泉 真澄、日系アメリカ人強制収容所における農業：アリゾナ州ヒラリバー戦時転住所の事例より、日本移民学会 第 23 回年次大会、2013

㉓ MINAMIKAWA, Fuminori, A Trans-Pacific Construction of “Japanese Woman”: Pre-War Japanese Immigrant Community and a Journey of Waka Yamada, 2013 Organization of American Historians Annual Meeting (国際学会), 2013

㉔ 園田 節子、南北アメリカ近代華僑の地域間コミュニケーションから考える「地域」、ラテンアメリカ学会 第 34 回定期大会 (招待講演) 2013

㉕ SONODA, Setsuko, Transnational Administration of Chinese Communities in the Americas: Knowledge and Experience Diffusion through Consulate and Local Organization Networks of Overseas Communities, The 8th International Society for the Studies of Chinese Overseas (国際学会), 2013

㉖ 石田 智恵、アルゼンチンにおける「移民」の社会問題化とその周縁：日本人移民の子孫が見た人種主義、日本文化人類学会 第 47 回研究大会、2013

〔図書〕(計 23 件)

河原 典史 (編著) 木下 昭 (編著) 水野 真理子、デイ 多佳子、半澤 典子、志賀 恭子、和泉 真澄、高橋 侑里、小林 善帆、李裕淑、佐藤 量、文理閣、移民が紡ぐ日本：交錯する文化のはざままで、2018、256 (和泉 78-100、佐藤 240-248)

渡辺 公三 (編) 石田 智恵 (編) 富田 敬大 (編) ほか 19 名、以文社、異貌の同時代：人類・学・の外へ、2017、664 (5-48)

華僑華人の事典編集委員会編、丸善出版、華僑華人の事典、2017、620 (園田 節子

358-359、384-385)

河原 典史(編)、三人社、カナダ日本人移民の子どもたち: 東宮殿下御渡欧記念・邦人児童写真帖、2017、297

根川 幸男(編著)、森本 豊富(編著)、伊志嶺 安博、東 悦子、石川 肇、松盛美紀子、吉田 亮、野呂 博子、細川 周平、中原 ゆかり、高橋 美樹、西村 大志、小林 ルイス、飯窪 秀樹、住田 育法、小林 茂子、佐々木 剛二、浅野 豊美、坂口 満宏、柳下 宙子、井上 章一、ミネルヴァ書房、越境と連動の日系移民教育史: 複数文化体験の視座、2016、488(413-429)

駒井 洋(監修)、佐々木 てる(編著)、南川 文里、佐藤 成基、石井 由香、川上 郁雄、小林 真生、李 洙任、陳 天璽、倉石 一郎、高畑 幸、梶村 実紀、倉田 有佳、南 誠、中山 大将、明石書店、マルチ・エスニック・ジャパニーズ: 系日本人の変革力、2016、256(26-41)

TAKEZAWA, Yasuko (ed.), Gary Y. OKIHIRO (ed.), Michael OMI, Yuko KONNO, Fuminori MINAMIKAWA, Andrea GEIGER, Yuko MATSUMOTO, Valerie J. MATSUMOTO, Wesley UEUNTEN, Sachiko KAWAKAMI, Eiichiro AZUMA, Rika NAKAMURA, Masumi IZUMI, Mari MATSUDA, Noriko K. ISHII, Lon KURASHIGE, Okiyoshi TAKEDA, Yoko TSUKUBA, Duncan Rycken WILLIAMS, University of Hawai'i Press, Trans-Pacific Japanese American Studies: Conversations on Race and Racializations, 2016, 456 (MINAMIKAWA 107-132, IZUMI 315-341)

兼子 歩(編)、貴堂 嘉之(編)、坂下史子、石山 徳子、土田 映子、大森 一輝、森川 美生、南川 文里、南 修平、藤永 康政、梅崎 透、和泉 真澄、佐原彩子、彩流社、「ヘイト」の時代のアメリカ史: 人種・民族・国籍を考える、2017、297(南川 143-162、和泉 235-356)

南川 文里、法律文化社、アメリカ多文化社会論:「多からなる一」の系譜と現在、2016、226

佐藤 量、彩流社、戦後日中関係と同窓会、2016、228

米山 裕(編著)、河原 典史(編著)、清水 さゆり、南川 文里、坂口 満宏、酒井 一臣、和泉 真澄、今野 裕子、小川 真和子、宮内 久光、大石 太郎、吉田 恵子、文理閣、日本人の国際移動と太

平洋世界: 日系移民の近現代史、2015、318(米山 3-13、南川 47-70、坂口 72-91、酒井 82-114、和泉 115-143、河原 146-162)

MACK, Edward(復刻監修)、森本 豊富(解題)、坂口 満宏(解題)、文生書院、日本語讀本: 米國加州教育局検定: 別冊解題付、2014、1490(別冊 29-39)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

米山 裕(YONEYAMA, Hiroshi)
立命館大学・文学部・教授
研究者番号: 10240384

(2) 研究分担者

坂口 満宏(SAKAGUCHI, Mitsuhiro)
京都女子大学・文学部・教授
研究者番号: 30298682

和泉 真澄(IZUMI, Masumi)
同志社大学・グローバル地域文化学部・教授
研究者番号: 00329955

河原 典史(KAWAHARA, Norifumi)
立命館大学・文学部・教授
研究者番号: 60278489

轟 博志(TODOROKI, Hiroshi)
立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授
研究者番号: 80435172

園田 節子(SONODA, Setsuko)
兵庫県立大学・経済学部・教授
研究者番号: 60367133

南川 文里(MINAMIKAWA, Fuminori)
立命館大学・国際関係学部・教授
研究者番号: 60398427

酒井 一臣(SAKAI, Kazuomi)
九州産業大学・国際文化学部・准教授
研究者番号: 10467516

飯塚 隆藤(IIZUKA, Takafusa)
愛知大学・地域政策学部・准教授
研究者番号: 10516397

石田 智恵(ISHIDA, Chie)
早稲田大学・法学学術院・専任講師
研究者番号: 50706661

佐藤 量(SATO, Ryo)
立命館大学・文学部・非常勤講師
研究者番号: 20587753